

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520285

研究課題名（和文） 世界歳時記における国際比較。

研究課題名（英文） Studies on Season Word(*Kigo*) and Poetic Almanacs(*Saijiki*)
in International HAIKU

研究代表者

東 聖子 (AZUMA SHOKO)

十文字学園女子大学短期大学部文学科・教授

研究者番号：20060717

研究成果の概要：国際 H A I K U は、21 世紀の現在、日本の俳句の影響を受けて活況を呈している。各国、各言語領域においての理論と創作を調査し、そこにおける＜季節の詞・歳時記＞の有無を考究した。世界の最短型の詩における秘儀を、東アジア・欧米・ブラジルなどを対象に、国際プロジェクトを組織し、高度にアカデミックに、自由で斬新な学際研究を目指した。交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	700,000		700,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	510,000	2,910,000

研究分野：比較詩学

科研費の分科・細目：

キーワード：国際ハイク・比較詩学・四季の詞・歳時記・文学と自然・詩的語彙

1. 研究開始当初の背景

尾形叡氏の「世界歳時記」の論文が、本プロジェクト研究の出発点である。

2005年3月末に、北京にて中国漢俳学会が成立し、研究代表が出席し、国際 H A I K U の熱気と現状を認識した。

2. 研究の目的

現在のグローバル化にともない、国際 H A I K U は世界約 50 か国において、創作されている。19 世紀のジャポニズムとは異なり、21 世紀の各言語領域でいかなる H A I K U の理論と作品があるかを調査した。日本の短詩型文学の俳句には、歴史的に季語がある。国際 H A I K U における＜季節の詞＞や＜歳時記＞の有無を考究した。

3. 研究の方法

本研究は、東洋と西洋その他の若手・中堅研究者による学際的国際プロジェクト研究である。研究代表のお茶の水大学大学院時代の国内外の友人を核としている。

2007 年の晩夏に英国・仏蘭西に、研究調査に出かけた。ロンドンでは句会に主席した。

2008 年の秋には東アジア国際会議ソウル大会（高麗大学校）に参加した。

4. 研究成果

折々にディスカッションや会議をし、各メンバーのテーマは、斬新かつ独自性を旨とした。東アジア文化圏における中国古歳時記・朝鮮歳時記・日本の古典歳時記の比較
欧米、他の国際 H A I K U と季語・歳時記
デーヴィッド・コブ著『英国歳時記』翻訳
参考文献＜季語・季題＞＜歳時記＞

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

— 東 聖子「漢俳の動き」(『国文学』2005.9月号、學灯社、81~87頁)

— 東 聖子「滑稽」『江戸文学』34号、2006.6月号、ペリかん社、58~70頁)

— 東 聖子「英国・ロンドン句会」(『十字国文14号』(2008年3月81~95頁)

東 聖子「『増山井』における詩的世界認識の方法」(A『東アジア比較文化研究』7号、2008年6月74~91頁)

— 東 聖子「江戸時代の季寄せ」(『俳句研究<歳時記の時代>』2008年秋の号、126~127頁)

— 東 聖子「俳諧と浮世絵 四季の詞<横題水仙>の形象化」(『国文学解釈と鑑賞』2009年5月号掲載予定)

— 藤原マリ子「危機に瀕する古典教育」(『日本文学』2006年2月号68~69頁)

藤原マリ子「近世歳時記における『通俗志』の位置」(『A』62~73頁)

— 俞玉姫「韓国時調に現れた季節の美と『興』」(『A』50~61頁)

— 李炫瑛「朝鮮歳時記の紹介」(『A』36~49頁)

— 田澤佳子「スペイン語俳句とマドリードの『学生寮』」(大手前大学比較文学会報)9号(2008年3月)

以下、省略。

[学会発表](計 7 件)

東 聖子「『増山井』における分類意識」(アジア比較文化国際会議、日本支部大会、2006年6月9日(土)京都女子大学)

東 聖子「近世歌謡における四季の詞」(俳文学会東京研究例会、2006年7月15日(土)、青山学院大学)

藤原マリ子「日本の短詩型文学「俳諧」における「切れ字」の機能研究」(第10回東アジア比較文化国際会議、2008年10月25日(土)韓国ソウル、高麗大学校)

平間充子「古代における葬送儀礼の芸能」(第10回東アジア比較文化国際会議、2008年10月26日(日)韓国ソウル、高麗大学校)

東 聖子「シンポジウム<季語研究の可能性>」田淵久美子氏(早稲田大学)と廣木一人氏(青山学院大学)と東の3人がパネラー。(2008年12月20日(土)青山学院大学)以下、省略。

[図書](計 2 件)

東 聖子「蕉門の代表的女流俳人 園女<白菊>の面影と二撰集」(共著『鑑賞・女性俳句の世界・第1巻』(角川学芸出版、2008年1月、39~54頁)

藤原マリ子「北陸の地に勁く慎まじやかに生きた女性 千代女」(同上、65~78頁)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1)研究代表者

東 聖子(AZUMA AHOKO)

十文字学園女子大学短期大学部文学科・教授
研究者番号: 20060717

(2)研究分担者

藤原マリ子(FUJIWARA MARIKO)

山口大学・教育学部・教授

研究者番号: 30363089

金子美都子(KANEKO MITUKO)

聖心女子大学・文学部・教授

研究者番号: 90138545

竹田賢治(TAKEDA KENJI)

神戸学院大学・人文学部・教授

(3)連携研究者

<日本>

坂口明子 英国俳句協会会員・英文学

平間充子(聖徳大学・桐朋大学非常勤・スペイン音楽)

田澤佳子(大手前大学大学院博士課程・スペイン比較文学)

<外国>

ショーロ・クラウリー(アメリカ・エモリー大学・教授 比較文学)

林 岫(中国漢俳学会副会長・元大学教授・書家)

石 観海(中国・吉林大学珠海学院・教授)

俞 玉姫(韓国・日本語文学科・教授)

李 炫瑛(韓国・建國大学校師範大学・助教授)